

2019年全日本カート選手権 FS-125部門/FP-3部門 西地域第3戦
2019年ジュニアカート選手権 FP-Jr部門/FP-Jr Cadets部門 西地域第3戦 [JAF公認No.2019-4017]

開催日：5月25～26日 開催地：中山カートウェイ 格式：国内/準国内 主催：株式会社山陽スポーツランド [団体登録No.公認83301]

フォト&レポート/藤原浩 (JAPANKART)

嶋田隼人選手が居附明利選手の3連勝を阻止して全日本初勝利。



猛暑の中山で熱戦展開! FS-125部門は嶋田隼人選手が初優勝!!

2019年の全日本選手権シリーズは、西地域がひと足早いスケジュール消化となっているが、東地域の第2戦開催の前に、早くも西地域の第3戦が5月25～26日に中山カートウェイで開催された。

FS-125部門では、開幕から2連勝を飾った居附明利選手が3連勝となる注目が集まった。しかし、その居附選手はタイムトライアルで他車に追突するアクシデントを起こし、フレームに損傷を負ってしまう。早くも3連勝の黄色信号が灯る。

代わってレースの主導権を握ったのは嶋田隼

人選手。予選をトップで終え、決勝はポールスタートとなった嶋田選手はリードラップを連発し、主導権を離さない。だが序盤を快調に飛ばしていた嶋田選手も、中盤以降ペースに陰りが見え始める。

「前半は良かったのですが、後半に入ってマシンや自分が疲れてしまった」という嶋田選手。それでも極端にペースが落ちることはなく、トップをキープし続ける。しかし、そのチャンスを逃さず接近してきたのが奥田もも選手。第2戦では2番手チェッカーもカウルペナルティで3位降格となり悔し涙を飲んだ奥田選手は、そ

の雪辱を期し嶋田選手に詰め寄っていく。一時は0.6秒ほどに開いていた差を、20周目以降ジリジリと削り、25周過ぎには0.3秒差と仕掛けられるまでに接近。勢いに乗った奥田選手は、残り2周を切った29周目のバックストレートエンド、4コーナーでインに飛び込み、ついにトップを奪う。一方抜かれた嶋田選手は「一瞬焦りましたが、冷静になろうと心がけた」といい、最終ラップにチャンスを窺う。

最終ラップ、2コーナー、4コーナーとインを閉めブロックラインを取る奥田選手に対し、「勝負は6コーナー」と考えていた嶋田選手がべ



FS-125部門/1.最終ラップにパッシングを決めた嶋田隼人選手が全日本初優勝。2.2戦連続の表彰台だが悔しさが残る2位の奥田もも選手。3.タイムトライアルでのクラッシュから持ち直した居附明利選手が3位入賞。



FP-3部門 / 4.今季2勝目を狙った坂裕之選手は2位。5.宮地健太郎選手は4番手フィニッシュも繰り上がりで3位。6.最後までプレッシャーに打ち勝った岡本旬司選手が地元開催の前に初優勝。



7.FS-125部門入賞の皆さん。8.FP-3入賞の皆さん。9.FP-Jr部門入賞の皆さん。10.FP-Jr Cadets部門入賞の皆さん。

ストラインから車速を乗せていく。そして勝負所の6コーナーでインに飛び込むと狙い通りに逆転。その後は奥田選手を押さえ込み、全日本初優勝のチェッカーへ飛び込んだ。2位の奥田選手は掴みかけた勝利を逃したショックから、車検場でうずくまり大粒の涙をこぼした。3位にはフレーム修復が決勝に間に合った居附選手が入り、ランキングトップの座を守った。

FP-3部門には17台が参加。前回鈴鹿大会はスポット参戦が多かったが、今回はほぼレギュラーメンバーでの戦いとなった。

決勝ではポールの岡本旬司選手がホールショットから首位を守るが、2周目の2コーナーで

氏家颯大郎選手がトップを奪い、以降レースをリードしていく。後続の2番手争いを後目に、ややリードを広げた氏家選手だったが、2番手争いが一段落し、岡本選手が抜け出して氏家選手を追う展開となると、徐々にリードが削られていく。それでもトップを守っていた氏家選手だったが、14周目に岡本選手にトップを奪われると、その後はブレーキにトラブルを抱え後退していった。

トップに立った岡本選手に迫ってきたのが坂裕之選手。16周目に2番手に上がった坂選手は、岡本選手に接近しテールトゥノーズに持ち込む。

「岡本選手が肋骨を痛めていると言っていたので、2番手につけた時点で勝ったと思った」と冗談めかして振り返った坂選手だったが、「本当

に痛かったしキツかった」と言いながらも岡本選手が快走を続けトップを守る。

25年前に2年ほどカートを経験し、2年前に復帰した「カート歴4年」という岡本選手は「プレッシャーもキツかったけど必死に前だけを見て走った。最後は奥のコーナー(6コーナー)なんかフラフラでした」と言いながらも最後まで坂選手の追走を振り切り初優勝。

普段は神戸スポーツサーキットのローカルレースに出場している岡本選手は、地元開催となる全日本第4戦へ向け弾みをつける優勝となった。2位には坂選手が入り、ランキングトップを堅持。3位は湯浅真司選手がチェッカーを受け表彰式に登壇するが、その後黄旗無視のペナルティもあり降格。代わって宮地健太郎選手が全日本初の3位入賞を飾った。



FP-Jr部門 / 11.終盤にトップに立った片桐涼雅選手が強豪を振り切りジュニアカート選手権初優勝を獲得。12.初優勝を目前としていた加藤大翔選手はバトルでの後退が大きく響き2位でチェッカー。13.3位には第2戦優勝の迫隆真選手が入り表彰台を獲得。



FP-Jr Cadets部門 / 14.レースを引っ張り続けた佐藤こころ選手だったが、残り5周で逆転を許し悔しい2位。15.終盤にトップグループに追いついた箕浦稜己選手は最終ラップに逆転し3位。16.チームメイトとの息詰まる接近戦を制し今季2勝目を獲得した松本琉輝斗選手。